

# 『向島の豊かな自然と生きもの』

## 第45回 虫のグループ分け

今回は、昆虫の世界をおおまかなグループに分けて展示をしてみました。

まず、①幼虫が成虫になるまでに蛹になる「完全変態」のグループ、

②幼虫の姿かたちが成虫と同じようであり、蛹にならない「不完全変態」の

グループ(一部、亜成虫となる種も含まれる)です。

「不完全変態」のグループに属する方が原始的な昆虫とされているようです。

昆虫界をさらに「目」というグループに分けて、虫の姿かたちや生態、棲む環境を考えました。

トンボの仲間は、産卵を水辺で行い、心化した幼虫は水中で水生昆虫などを食べて育ちます。成虫になると水から出て、空中で昆虫を食べ(肉食)暮らすようになります。

チョウの仲間は、ほとんどの幼虫が草食(一部、アリと共生して肉食する種もいる)で、体の大きさに合わずかなり大食いです。成虫になると食べ物が変わり、花の蜜や樹液を吸うようになります。

ガの中には、成虫になると何も食べない種もあるようです。

カメムシの仲間は、みんながよく知っている臭いにおいを出すカメムシや、数年もの長い間地中で植物の根などを食べて幼虫期を過ごした後、地上に出て成虫で過ごす期間の短いセミの仲間がいます。(セミよりもっと成虫期間の短い虫もいます)

そういう風にカメムシを見てみると、虫の世界の多様性に驚くばかりです。

などなど、昆虫を「目」ごとに分けてみて、虫の世界にもう少しもうちょっと長く接してみたくなりました。

※グループ分けについては、全国農村教育協会発行の「昆虫博士入門」を参考にし、全体を29目に分け、収集している昆虫13目を展示しました。

～ 花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ ～